



西郷南洲翁揮毫

ご挨拶

理事長 吉永龍暘

謹啓 会員の皆様にはご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のお引き立てを賜り心より御礼申し上げます。

さて、理事長吉永洲神の逝去に伴い、理事長には吉永龍暘が就任致しました。決意を新たに、今後もこの道の発展に精進致します。何卒高承の上、変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

尚、新会長には六月一日付にて吉永龍奏に引き継ぎを致しました。吟道の普及活動に精進致す所存です。皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

又南洲吟道会創立四十五周年記念吟道大会では、皆様のお力添えにより盛大裏に終了致す事ができました。心より御礼申し上げます、感謝を申し上げます。有難うございました。

皆様のご健勝をお祈り致し、益々発展されますようお願いを申し上げます。謹白

会長 吉永龍奏

生誕九十年を迎える前理事長・洲神が、四十五歳頃に創設した南洲吟道会。愚娘の私も既に齢五十です。移り行く時代と共に、吟詠人口は減る一方でありましょう。私は、その理由の追求を怠ることなく、また二本の柱を志とし、ご賛同頂ける方々と人生を共に致したく、生涯現役を貫く覚悟です。幾重にも広がる吟詠の楽しみ方を伝えゆく為に、会員皆様のお力添えを賜りますようお願いを申し上げます、就任のご挨拶とさせて頂きます。

会報 「敬天愛人」第五十号

発行日 令和元年七月十五日
編集人 南洲吟道会 広報局局长 佐藤龍廣
発行人 理事長 吉永龍暘・会長 吉永龍奏
発行所 〒一六五〇〇三五 東京都中野区白鷺一三四一五
公益社団法人 日本吟道学院公認 南洲吟道会
電話・FAX: 〇三二三三三〇一七〇〇九

◎ 故吉永洲神理事長の追悼

洲神会 佐藤龍廣

(一) 訃報と遷霊祭及び神葬祭

故吉永安治(洲神) 儀去る一月三十日午後二時五十五分享年八十九歳永眠、遷霊祭二月十日午後六時、葬場祭二月十一日午前九時三十分。式場・堀ノ内斎場、喪主: 吉永洋子(龍暘) 遷霊祭、葬場祭の様子は左記の写真を参照下さい。



葬場祭の祭壇風景



龍暘先生の喪主挨拶

(二) 日本吟道学院への貢献

南洲吟道会の発足は、洲神先生が昭和五十一年設立。龍神先生の「日本吟道学院」が昭和五十五年創立と同時に、一吟洗心・吟道報恩の精神に賛同し、昭和五十五年に入会認可団体となった。洲神先生は、日本吟道学院の本部に事務局長として勤務された後に、役職は、昭和六十一年理事、平成五年常務理事待遇に、平成七年常務理事、更に平成十五年副総裁へ、平成二十年退任以降最高顧問として、亡くなるまで勤められた。

○ 弔 辞

赤池龍徳

謹んで故吉永洲神先生のご霊前にお別れの言葉を申し上げます。
洲神先生が生みの親で、手塩にかけて育てた南洲吟道会が、当年四十五歳の立派な成人になりました。これを記念し五月二十六日に中野サンプラザに於いて吟道大会が企画され、構成吟の部では、吉永洲神先生の書かれた脚本『ああ大西郷』も演じられる手筈で、万端整い、その日を待っていた矢先、先生の訃報に接し、誠に残念で、痛恨の極みでございます。

私が南洲吟道会に入会して、先生のご指導を頂く事になったのは平成九年の十一月からで、爾来二十一年になります。まずは見学にということでしたが、先生のお話を伺う内にこれぞわが師と確信し、即日入会の手続きをした次第です。

先生は西郷南洲翁の遺訓「敬天愛人」の精神即ち天を敬い大自然に従い我を愛する心を以て人を愛する、思いやりの精神を戴し、吟道を通じて報恩の心を養いかつ実践すべしという、会則第三条にも掲げられました。

また、詩歌の朗吟は詩歌の心を良く読み取って詩情を理解し、背筋を伸ばして胸を張り、腹の底から発声することが肝要だと教示して下さいました。

私達は吟道精神を戴し先生の教えを守り、一層努力することをお約束いたします。
洲神先生本当にありがとうございました。
ご冥福をお祈りします。

平成三十一年二月十一日

南洲吟道会代表

洲神会 赤池龍徳



○ 弔 辞

平松龍宝

洲神先生!!
とうとうこの日がやって来てしまいました。

玉枝ちゃんによれば『私についてきなさい』と云って下さいましてから二十六年、先生のお人柄にふれ楽しく勉強をさせて頂きました。頑固で曲ったことが大嫌い、寂しがりで、底抜けのお人好し、私達会員はそんな先生が大好きでした。凛々しい舞台姿にあこがれ心揺さぶる吟声を忘れることが出来ません。先生が遺してくださった言葉『下手でも良いから心を込めて吟じなさい』しっかりと肝に銘じております。

五月には、先生の会の四十五周年大会です。龍陽先生、龍奏先生、会員一同で頑張りますので、見守っていらして下さい。さようならば申しませぬ。私たちの心の中には、先生がいつでも生き続けています。大好きな洲神先生ありがとうございました。最初で最後のラブレターです。

平成三十一年二月十一日

国分寺会会長

平松龍宝



○ 南洲吟道会創立四十五周年記念大会

感謝の集い 吟道大会

日時 令和元年五月二十六日(日) 開場午前九時
会場 中野サンプラザ コスモ 十三階 開演午前十時

(一) オープニング

「南洲吟道会創立四十五周年を祝す」

手塚憲祥作

舞 会長吟詠

吉永龍暘
神宗流剣詩舞道一同

- (二) 修礼・国歌斉唱・吟道精神斉唱・物故者への黙祷・開会の言葉
- (三) 会員吟詠(第一部・第二部・第六部・第十部・第十一部)
- (四) 構成吟 第三部「良寛を訪ねて」第八部「あゝ大西郷」
- (五) 式典 (六)薩摩琵琶「那須の与一」第十部・第十一部・第四部
- (七) ご招待吟詠 (第九部、第十二部) (八) 理事長吟詠 第十三部



会場の後方で、静かに出場の皆さんの活躍を喜んで見守っていました。



オープニングの龍暘先生の吟詠と神宗流の方々の舞

○ 青少年大会に参加して

龍暘会第二教場 菊田龍瑞

春休みに入ってからすぐの土曜日、孫と一緒に参加する青少年大会に参加、孫の名は足立英美佳、小学校に入学してすぐの四月から教え始めた詩吟、俄か仕込みでも頑張ったという来てくれた詩舞、本当に頑張ってくれたと思います。負けん気が強い分、勝負には燃えるタイプ、それが幸いしているのと、音感が良いのも、本人の力量に「良い影響を及ぼしている」。そんな孫と週一回のお稽古をこなす日々、私にはとっても良い刺激をもらっています。

今回の舞は「赤とんぼ」、芝居風にしたり、まともに詩舞の振り付けの振りをつけ、可愛らしさも表現でき、一緒に踊れたのが私としても良い思い出になります。幸せなことですね。

孫は自分の結果を知りたく思っているようです。頑張っているから知りたいのでしょう。孫は、合唱団にも参加していて、その他、色々なサークルにも参加しています。いつまでやってくれるかな？ 高学年になったら、塾もはいつてくるし・・・それでも今やっていることは大きくなった時には何らかの役に立ってくれるのではないかとひそかに楽しみに思っています。

人前で発表する気恥ずかしさも、少しづつもらえる勇氣。思い通りに出来なかった時の悔しさも、貴重な経験の財産。いつまで続けてくれるかわかりませんが、本人が欲しいと言っているトロフィが頂けるように精一杯後押しをしつつ来年も頑張るって青少年大会に出吟出来るように、共に頑張ります。応援頂き、ありがとうございました。



○ 壮心大賞を受賞しました

白鷺教場 山田恵美子（瓊龍）

※（三月二十三日（土）に青少年大会と同日に「壮心の集い」が開催され、南洲吟道会の山田瓊龍さんが優勝されました。来年の全国大会にも出場が決まりました。）

平成三十一年三月二十三日、春雨の中、東京墨田区トリホニーに於いて「第五十四回吟道青少年大会」と「壮心の集い」が開催されました。全国各地より、将来の吟界を背負って立つ可愛くも逞しい少年少女や青年達が、素晴らしい吟を、競い合いました。私は、幸い東京地区の壮心の集いの代表となり、更に光栄にも、壮心大賞を受賞するという大きな栄誉を頂き喜びを感じました。

当日は初めに、龍陽先生のご指導を思い起こし、前奏の流れとともに、腰を据え、深い深呼吸を二回して、吟題と作者名を云うと気持ち落ち着きました。雪の降る中、三人の子を連れて芳野山に落ちて行く常盤御前の姿を思い浮かべました。転句の「他年鉄柵」からは、頭高型のアクセントが強い吟調の処を気持ち込めて吟ました。

私の日頃の欠点は、生まれた土地の訛りやアクセントが、標準語と逆になることが多く、苦労しましたが、龍陽先生の懇切丁寧なご指導に沿って、吟じられたので、大変感謝をしています。

さて、平成の世も終わりを告げて、新元号は万葉集巻第五「梅花の歌」の序文を取り入れた「令和」となりました。その和歌のように「美しく、優しく、清々しく」

元号に合った生き方を…と吟道に励みたいと思っています。

吉永龍陽先生を始め諸先輩の方々のご指導を受け、会員の皆様と心一つにして、南洲吟道会の益々の発展の為、微力ではありますが頑張りたいと思っています。



○ 思いかけず頂きました。文部科学大臣賞

龍陽会 第二教場 菊田龍瑞



情緒あふれる下町「浅草」での全国大会、場所的にも会場も「ちよつとなれない場所でしたが、「江戸芸かつぽれ」で賑やかに幕開けを迎えました。もともと私は下町生まれ、賑やかなものは大好き人間です。

残念なことに、一部の出番でしたので見ることが叶わず、その分発声練習代わりに「九段の桜」精一杯声を出しての合吟に参加。その後の第二部「吟士権者最終認定コンクール」に備えました。

何度となく舞台に立ってきましたが、心臓に悪い状況に置かれるのは同じ、平成十四年に漢詩部門で、吟士権者に認定して頂いた後、かれこれ十年ほど和歌を挑戦しておりました。ブービー賞だったのです。「あとちよつとだね！」と聞こえる言葉、私の和歌のいけないところ教えてほしいな？！と思いつつ、思い切つて俳句に挑戦し、二位、翌年吟士権に認定、更に次の年は新体詩「帰郷」に挑戦し、絶句して敗退、「空っぽの心」で再挑戦し認定・・・そんな履歴が4あります。残り「和歌」うまく行かなかった過去が蘇ります。選んだ吟題は、あいだみつお作「道」でした。

『かえりみる ゆとりなけれど ともかくも
いのちいかされ あゆみきしみち』

来年、奄美大島には心置きなく遊びに行きたい。今度で最後になりたい。舞台袖で見た大きなカップ。合吟コンクールで頂いたことがあるな。と、吟士権者のカップは？・・・吟士権者のカップは？無いみたいとお役の方々がお話しているのを聞きながら、待機していました。松山さんの名を呼ばれ「嗚呼、良い吟だった」彼の吟を思い浮かべ、最後に私の名前が呼ばれた時にはほつとして嬉しかった。それだけでも最高でした。そして「文部大臣柴山昌彦」と聞いた時の私は、多分顔中満面の笑みだったと思います。

懇切丁寧に詩文の持つ醍醐味をご指導下さった龍陽先生。共に喜んで下さった仲間たち、身に余る賞を頂き、これからも詩吟と共に学んで行きたいと思っています。心よりお礼を申し上げます。

○ 菊田先生の文部科学大臣賞及び四冠を祝す

手塚憲祥 (指導局次長)

令和佳気満天地

れいわ かき てんち み
令和の佳気 天地に満ち

喜聴扶桑第一栄

よろこ き ふそうだいち ほまれ
喜び聴く 扶桑第一の栄

絶妙名吟正無匹

ぜつみょう めいぎん まさ たぐ な
絶妙の名吟 正に匹い無く

多年精進遂功成

たねんしょうじん つい こうな
多年精進して 遂に功成る

(踏落庚韻)

佳気めでたい気 扶桑第一 日本一 無匹 匹敵するものがない

令和元年五月三十一日 日本吟道全国大会 於浅草公会堂

○ 第六十九回 日本吟道全国大会・

とき 令和元年五月三十一日 (金)

開場：九時十五分

開演：九時四十五分

ところ 台東区立 浅草公会堂ホール

第一部3番 南洲男子『偶感』

第一部8番 南洲女子『九段の桜』

特別構成番組

『お札モデルのぶらり旅』

※ 式典にて吉永龍陽先生が

「宗元」に推挙されました。



○ 平成三十一年度事業報告

前半に予定のもの (指導局)

平成三十一年度春季昇段審査

四月十三日(日) 結果報告、

昇段審査会が白鷺高齢者会館に於いて肅々と実施され、次の通り審査決定されました。

【春季昇段者名簿】

初段 澤口三吟	初段 亀井即吟
初段 足立英吟	二段 新妻眞吟
二段 牧野小吟	初伝 安齊治洲
三段 比企春洲	中伝 大滝和水
中伝 伊藤文水	六段 春山美水
六段 三上瑠水	六段 高木里水
七段 野澤純城	準師範 春山美水
九段 茂呂眞祥	秀伝 小室慶龍
十段 猪浦雅龍	十段 肱岡宏龍
総伝 稲葉龍誠	

以上十九名の方が合格です。おめでとう御座います。益々のご活躍をお願い致します。

本部 便り

◎ 新入会員の紹介

座間会	秋元多美子さん	(平成三十一年二月二十四日)
座間会	木下多美子さん	(平成三十一年二月二十四日)
鷺宮教場	黒田町子さん	(平成三十一年四月四日)
かなで教場	秋山 隆さん	(平成三十一年四月七日)

(総務局)



〇 吟行研修会

日時 令和元年五月三十一日(金)から六月一日(土)
 行先 栃木県『一吟洗心の杜』を訪ねて
 『顕彰の碑』の除幕式・式典に参加
 宿泊 那須ハートランド

〇 吟行研修会に参加して

鷲宮教場 肱岡 宏龍(事業本部部長)

令和元年の吟行研修会は、日本吟道学院の『一吟洗心の杜』を訪ねることでした。ここは、日本吟道学院の普及功労者を顕彰する杜として、平成二年六月二十三日、創立者である、渡邊龍神を顕彰して、「一吟洗心」の塔を建立し、その後、学院の普及功労者を石碑に名を刻み、顕彰することにしたそうです。

その碑は、本年四基目となり、それを記念して除幕式を、吟行研修の一つとして実施されました。自分自身、今までは写真でしか知らなかったのが、今回見ることが出来、その場所に立って、顕彰されている方々の吟道に対する心と指導者としての熱意を感じました。

今回除幕した四基目には、吉永龍陽先生の名前が新しく刻まれており、その前にある三基目には、吉永洲神先生の名前が刻印されていました。お二人とも、その名前が、今自分が詩吟を続けている原動力となっていることを実感しました。

龍陽先生には今後共指導受けながら頑張っていくと、ここを引継ぎ縮まる思いでした。この場所は、将来は研修所として使用されるかもしれないと話しました。

南洲吟道会も洲神先生が創立し四十五周年を迎えました。更に前進して行くことを望んでいます。



日本吟道学院の全国大会終了後に、研修会にバスで直ちに出發しました。

南洲吟道会からは、参加者は五名でしたが、龍陽先生の新たに刻まれた名前と洲神先生の名前のある顕彰碑を、添付写真の通り確かめることが出来ました。一吟洗心の杜に、最初に植えられた樹木は大木に育ち「一吟洗心の塔」を覆っていました。
 (佐藤龍廣 記)

編集後記

今回の「敬天愛人」五十号は「令和時代」に改元され、最初の発刊である。

南洲吟道会の定時総会時に(七月十五日)に会員の皆様に紙に印刷されたものを配布できるように、完成をめざしました。勿論ホームページに掲示しております。原稿は普段より多く集まりましたので、六頁となりました。皆様のご協力に感謝いたします。

吉永洲神先生が創設された南洲吟道会は四十五周年の輝かしい歴史を踏襲、吉永龍陽新理事長、吉永龍奏新会長の体制となり、スタートしました。新たな体制で、一層の飛躍が期待されています。

(広報局編集部長 曾根龍富 記)



- 広報局長 佐藤龍廣
- 広報部長 萩野進龍
- 編集部長 曾根龍富
- 記録部長 稲葉誠龍
- オプザバー 手塚憲祥
- HP担当 菊地務